学校番号	３０２

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学C	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	最新　数学C　（数研出版）						
副教材等	3ROUND 数学C　（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して自ら考え、周囲の人と協力しながら取り組む活動を行います。
・分からないところは、先生や友人に積極的に質問しましょう。
・分かっている人は、分からない人に積極的に教えてください。他人に教えることで、自分の理解もさらに深まります。
・問題集専用のノートを用意してください。
・問題集の問題は、まず自分で解いてみましょう。答えだけでなく、途中式や考え方も必ず書くようにしてください。
・解答後は各自で答え合わせを行いましょう。答え合わせは、自分がどこでつまずいたかを知るための大切な学習です。
・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
【思考力、判断力、表現力等】
得た知識・技能を用いて、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培う。
【学びに向かう力、人間性等】
数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさと向きをもった量に着目し,演算法則やその図形的な意味を考察する力,図形や図形の構造に着目し,それらの性質を統合的・発展的に考察する力,数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度,粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度,問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章　ベクトル	第1節　平面上のベクトル 1. ベクトル 2. ベクトルの和 3. ベクトルの差 4. ベクトルの実数倍 5. ベクトルの成分 6. ベクトルの成分と演算 7. ベクトルの内積 8. 内積の性質 第2節　ベクトルと平面図形 9. 位置ベクトル 10. ベクトルと図形	a: 有向線分とベクトル，ベクトルの表記について理解している。 ベクトルの加法，減法，実数倍の計算の仕組みを理解している。 ベクトルの大きさとなす角から，内積を求めることができる。 b: 和や差における逆ベクトル，零ベクトルの役割を理解している。 ベクトルのなす角について理解している。 位置ベクトルの概念について理解している。 c: ベクトルの演算に興味をもち，数式の演算法則との類似点を考察しようとする。 内積のもつ図形的な意味を探ろうとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 レポート	提出ノート 提出課題 観察
2学期	第1章　ベクトル	第3節　空間のベクトル 12. 空間の座標 13. 空間のベクトル 14. ベクトルの成分と演算 15. ベクトルの内積	a: 空間における図形を，図や座標を利用して示すことができる。 ベクトルの諸定理が平面の場合と同じであることを理解して，それらを利用できる。 b: 空間のベクトルを平面上のベクトルの拡張として捉えることができる。 空間における図形を，1つの頂点に関する位置ベクトルで考察できる。 c: 既知である平面の座標の概念を空間の座標に拡張しようとする。 既知である平面の座標の概念を空間の座標に拡張しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 レポート	提出ノート 提出課題 観察

	第2章　複素数平面	1. 複素数平面 2. 複素数の和と差 3. 複素数の極形式 4. ド･モアブルの定理 5. 複素数と平面図形	a: 複素数平面について理解している。 複素数を極形式で表すことができる。 ド･モアブルの定理の意味を理解している。 b: 複素数の実数倍は相似拡大を表していることを理解している。 複素数の乗法･除法は回転移動および拡大･縮小を表していることを理解している。 絶対値と偏角によって線分の長さと角の大きさを捉え，初等幾何的な問題を複素数の問題に帰着させることができることを理解している。 c: 複素数平面を用いて，複素数を図形的に表現することに興味・関心を示す。 複素数が絶対値と偏角を用いて表されることに興味･関心をもち，進んで考察しようとする。 等式を満たす点zが複素数平面上でどのような図形を描くかに興味・関心を示し，考察しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 レポート	提出ノート 提出課題 観察

3学期	第3章 式と曲線	第1節 2次曲線 1. 放物線 2. 楕円 3. 双曲線 4. 2次曲線の平行移動 5. 2次曲線と直線 第2節 媒介変数表示と極座標 6. 曲線の媒介変数表示 7. 極座標と極方程式	a: 焦点と準線が与えられたとき，放物線の方程式を求めることができる。 曲線を媒介変数表示できる。 極座標で表された点の位置を表示できる。 b: 1年で学習した2次関数のグラフとしての放物線と2次曲線としての放物線を関連づけて捉えることができる。 x, yについての方程式では表しにくい曲線を，媒介変数表示を用いて考察することができる。 曲線を極座標を用いて表すと簡潔に表せ，その性質の考察が容易になることがあることに気づく。 c: 2次曲線を解析幾何学的な方法で考察することに意欲的に取り組もうとする。 曲線の方程式の媒介変数表示に興味・関心をもち，媒介変数で表された曲線がどのような曲線であるかを調べようとする。 平面上の点を表すのにいろいろな座標系があることに興味・関心をもつ。	定期考査 確認テスト	定期考査 レポート	提出ノート 提出課題 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度